

きぼう

明石市立大久保北中学校 第2学年
学年通信 第64号
令和元年11月14日(木)

今日の努力は明日の力になる。継続することですなわち将来の力になる。
学校ホームページ URL : http://scwww.edi.akashi.hyogo.jp/~jr_okbn/

『生徒会プロジェクト』

～ 学校生活をよりよくするために ～

先週は生活委員、保健委員で『ハンカチ・ティッシュ』の点検活動、今週は整美委員会でロッカー点検が行われています。大きな行事を終え、学期末に向けて学校生活をよりよくしていこうという取り組みです。それぞれの生徒会、専門委員会ではプロジェクトの案を考えて、大久保北中学校をさらに発展させていくための取り組みを考えてくれました。取り組みをするにあたっては、自分やクラスの現状を考えて実施できるようにSHRなどで連絡があったと思います。今回の取り組みや、これから行われる取り組みは、大久保北中学校をみんなの力でよりよくしていこうというものです。これからの一人一人の高い意識を期待します。



人権教育講演会 桂福点さん

12日(火)に落語家の桂福点さんが来校されて、講演をしていただきました。桂福点さんは川西市生まれ。生後すぐ先天性緑内障で手術をしたが右目を失明、左目の視力は徐々に落ちていき左目も盲学校高等部でほぼ見えなくなりました。大学では演芸や音楽に親しみ、卒業後は医療機関などで音楽療法に取り組みました。阪神大震災が起きた1995年の12月、障がい者や被災者らに面白い話をしながら歌を披露すると喜んでくれて、「どんなときでも笑うことは大切」と気づき翌年桂春団治さんの門をたたいた。今回の福点さんの講演を聞いて、断家さんらしい楽しい講演を聞きながら「ノーマライゼーション」について考えました。



人権教育講演会を聞いて 感想文

◆僕は始められたのはお笑い芸人かな、と思うくらいおもしろい人だと思いました。ですが、目が見えないということを知ってすごく驚きました。理由は目が見えなくても人を笑顔にする力があって、しかも普通にまわりで知っている芸人よりもはるかにおもしろかったです。福点さんの話を聞いてすごく人権について考えることができました。

僕は今日の話聞いて改めて人と人のつながりや障がいのある人への接し方など色々考えました。そして、僕は目も見えて、音も聞こえて手足も自由に動きます。だからこそ福点さんのように普段から明るくして自分も障がいのある人やいろんな人を笑顔にできるように日々の生活を送っていきたくと思います。

◆僕も父が障がい者です。僕の父は今、健常者と共に生きています。それは障がい者でも認めてくれた母やまわりの人がいるからだだと思います。周りに認めてもらう桂さんは笑いで周りと同等になったんだと思います。僕は「障がい者として健常者はほぼ一緒」だと思うので、障がい者と健常者をつなぐ人間になりたいです。

◆今日は「桂福点」さんという人はどんな人なのか今日の講演でよく知ることができました。見た目は普通の人だと思いました。しかし、目が見えないという病と闘ってきたと聞いた時に、正直驚いてしまいました。なぜなら目が見えないにも関わらず、福点さんはとても明るいお方で人を笑わせてくれる神様だと思いました。福点さんは中2の時からどちらの目の視力も失ってしまい、「死にたい」という時期があったと聞いて、それが私の立場だったら、私も福点さんのような気持ちになると思います。精神的につらいと思うし、人生生きている価値がないから。でも福点さんは病に負けず色々な夢を持った福点さんがカッコいいと思いました。なぜなら、精神的に追いつめられても夢を追い続ける、叶えるということは何か新しい自分になるということだと思ったからです。私はこれから福点さんのように人生で何かがあるか分からないけど、きっと良いことはたくさんあると思うので困った時は一番親しい人に相談し、困っている人がいたら気軽に聞ける身近な質問から話しかけられるように、もっと自分の器を広くし、助けられる人になりたいと思いました。

★★毎学終了★★

～11月13日(水)

8冊目…

6冊目…

4冊目…

3冊目…

5冊目…

2冊目…

期末テストが月末にあります。期末考査は教科数も多くなりますので、範囲が発表される前からの取り組みをしていきましょう。教科書やワーク、プリントなど、復習に徹しましょう。 “なせば成る”